

イネ科牧草の特徴を知ろう！

一、はじめに

近年、自給飼料の品質向上を高める気運が高まっています。様々な牧草種がありますが、それぞれの特徴をとらえて、採草、放牧、兼用など利用方法に合った牧草種を選択しましょう。今回は普及センターの試験展示圃調査データを活用して草種の特徴を紹介いたします。

二、牧草の収量と生育の違い

牧草の草種毎の生収量を比べてみました(図一)。チモシーを100%としたときの収量は草

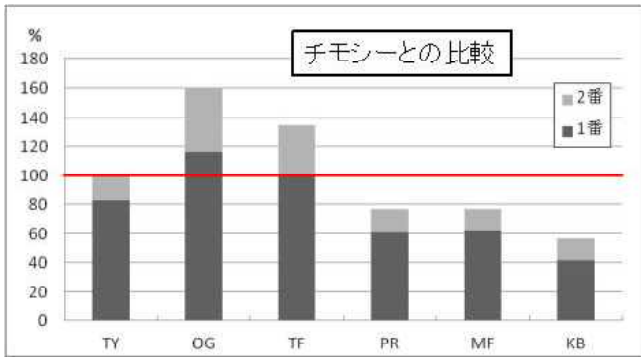


図1 イネ科牧草の収量性の違い

牧草の種類

チモシー(TY)
オーチャードグラス(OG)
ペレニアルライグラス(PR)
メドウフェスク(MF)
ケンタッキーブルーグラス(KB)
トールフェスク(TF)
イタリアンライグラス(IR)

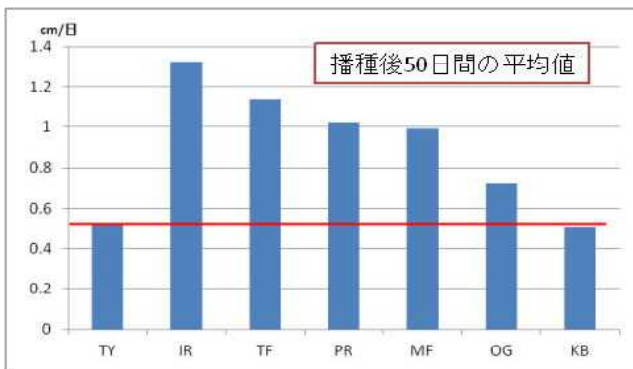


図2 イネ科牧草の初期生育1日当たりの伸び

種によって大きく異なります。特にオーチャードグラスはチモシーの約一・五倍の収量が得られました。

また、初期生育はイタリアンライグラス、トールフェスク、ペレニアルライグラス、メドウフェスク、オーチャードグラスの順で生育が良く、チモシーは

生育に時間がかかる草種ということがわかります(図二)。

三、チモシーとオーチャードグラスの出穂時期と刈り取り適期

牧草の出穂時期は草種とその品種によって一ヶ月以上も異なります(表一)。刈り取り適期が異なることを利用し、収穫作業時期を分散することが可能となります。

表1 OG、TYの出穂時期(根釧農試)

6月5日	6月10日	6月15日	6月20日	6月25日	6月30日	7月5日	7月10日
OG早生		OG晩生 TY極早生	TY早生	TY中生(早)	TY中生(晩)		TY晩生

四、オーチャードグラス主体草地への更新事例

釧路市音別地区ではチモシー主体に播種されてきました。一

番草、二番草の収穫時期が早いことから三番草の収穫が行われていきます。しかし、チモシーは多刈りに弱い草種であり、毎年三刈りすることは、草地を雑草化させる原因となります。

そこで、音別のTMRセンターでは草地更新時にオーチャードグラス主体でペレニアルライグラス、シロクローバーを播種しました(写真一)。オーチャードグラス主体とすることで、刈り取り後の再生力が優れ、三刈りに対応した草地となります。普及センターでは様々な種子組み合わせを提案していただきますので、ご相談下さい。



写真1 OG主体草地

(平成二十五年九月作成)